

クラブ大会試合結果一覧

陸上競技部

- 4月 高校総体西三河予選 男子総合 優勝女子総合 優勝
- 5月 高校総体愛知県大会 男子総合 2位 女子総合 2位
- 6月 東海高等学校総合体育大会(岐阜)
 - 橋本清愛(刈谷東)100m 6位・200m 4位
 - 磯貝洋聡(福地)走幅跳 4位・三段跳 上村玲大(朝日)三段跳
 - 木下みなみ(平坂)砲丸投 3位・円盤投 杉浦颯志(竜海)110mH・400mH
 - 仙石肇子(篠目)三段跳
 - 吉野朱祐(大高)400m 5位
 - 火山華(六ツ美)1500m 3位・3000m
 - 筒井優佳(六ツ美北)400mH 3位
 - 新聞愛純(六ツ美北)女子七種競技 4位
 - 山口統士(大高)砲丸投
 - 植田颯志(翔南)110mH
 - 片桐舞(大高)砲丸投
 - 夏目純佳(矢作北)女子七種競技 3位
 - 男子4x400mR
 - 清水幸太郎(鶴城)・吉野朱祐(大高)・富川空翔(安城北)・杉浦颯志(竜海)
 - 女子4x100mR
 - 大山莉奈(明祥)・橋本清愛(刈谷東)・矢嶋紗由菜(桜山)・中村陽菜理(高浜)
 - 女子4x400mR
 - 筒井優佳(六ツ美北)・橋本清愛(刈谷東)・松山由奈(六ツ美北)・松澤由奈(桜井)
- 6月 第40回U20日本陸上競技選手権大会
 - 橋本清愛(刈谷東)100m
- 7月 全国高等学校総合体育大会(福岡)
 - 橋本清愛(刈谷東)100m・200m
 - 磯貝洋聡(福地)走幅跳 6位
 - 木下みなみ(平坂)砲丸投
 - 吉野朱祐(大高)400m
 - 火山華(六ツ美)1500m
 - 筒井優佳(六ツ美北)400mH
 - 夏目純佳(矢作北)女子七種競技
- 8月 第67回東海陸上競技選手権大会
 - 橋本清愛(刈谷東)100m 2位・200m
 - 木下みなみ(平坂)砲丸投 7位・円盤投
 - 杉浦颯志(竜海)400mH
 - 火山華(六ツ美)1500m・5000m 優勝
 - 大嶋将広(大府)走高跳
 - 佐藤真帆(前林)1500m・5000m
 - 植田颯志(翔南)110mH
 - 片桐舞(大高)砲丸投
 - 夏目純佳(矢作北)走高跳 7位
 - 男子4x400mR
 - 上村玲大(朝日)・吉野朱祐(大高)・清水幸太郎(鶴城)・富川空翔(安城北)
 - 女子4x100mR 6位
 - 大山莉奈(明祥)・中村陽菜理(高浜)・矢嶋紗由菜(桜山)・橋本清愛(刈谷東)
 - 女子4x400mR
 - 坂東一葉(大府北)・矢嶋紗由菜(桜山)・中村陽菜理(高浜)・松澤由奈(桜井)
- 9月 新人戦西三河予選
 - 男子総合優勝(トラック優勝・フィールド優勝)
 - 女子総合優勝(トラック優勝・フィールド2位)
- 9月 新人戦愛知県大会
 - 男子総合3位
 - 女子総合2位
 - 【上位6位入賞者】(上位順)
 - 片桐舞(大高)砲丸投 優勝
 - 山口竜一(色)400mH 2位
 - 植田颯志(翔南)110mH 2位
 - 矢嶋紗由菜(桜山)100mH 2位
 - 杉浦丞真(西尾東部)やり投 2位
 - 夏目純佳(矢作北)三段跳 3位
 - 清水幸太郎(鶴城)400m 4位 400mH 4位
 - 坂東一葉(大府北)走幅跳 4位
 - 松澤由奈(桜井)400m 4位
 - 松ヶ野万利(福岡)円盤投 5位
 - 坂東一葉(大府北)走幅跳 5位
 - 山口統士(大高)ハンマー投 5位
 - 夏目純佳(矢作北)走高跳 5位
 - 中村陽菜理(高浜)200m 6位
 - 山口統士(大高)砲丸投 6位
 - 男子4x100mR 4位
 - 男子4x400mR 6位
 - 女子4x100mR 3位
 - 女子4x400mR 4位

男子バスケットボール部

- 4月 高校総体西三河予選 優勝
- 5月 高校総体県大会 3位(東海大会出場)
- 6月 東海高等学校総合体育大会 出場
- 7月 愛知県私学大会 4位
- 8月 西三河夏季選手権大会 準優勝
- 11月 全国高等学校バスケットボール選手権大会愛知県大会 第4位

女子バスケットボール部

- 4月 高校総体西三河支部予選会 優勝
- 5月 高校総体愛知県大会 3位
- 6月 高校総体東海大会 4位
- 8月 西三河夏季選手権大会 優勝
- 8月 国民スポーツ大会 東海ブロック大会
 - 川岸心晴(熊取町立熊取) 優勝
- 10月 国民スポーツ大会 川岸心晴(熊取町立熊取) 準優勝
- 11月 全国高等学校バスケットボール選手権大会愛知県大会 第4位

ソフトボール部

- 5月 愛知県総合体育大会 出場
- 7月 愛知県選手権大会 3回戦
- 8月 全三河選手権大会 第3位
- 8月 中部私学選抜大会 2部トーナメント2回戦
- 10月 愛知県新人体育大会 2回戦

野球部

- 9月 愛知県高等学校野球選手権大会 出場

バドミントン部

- 4月 高校総体全三河予選
 - 女子団体 準優勝
 - 女子シングルス ベスト16
 - 女子ダブルス 優勝
 - 男子団体 第3位
 - 男子シングルス 第3位
 - 男子ダブルス ベスト16
- 5月 高校総体愛知県大会
 - 女子団体 第3位
 - 女子シングルス ベスト16
 - 女子ダブルス 準優勝
 - 男子団体 ベスト16
 - 男子シングルス ベスト16
 - 男子ダブルス 出場
- 8月 全国高等学校総合体育大会(佐賀県)
 - 女子ダブルス出場 西村咲良(高浜)・藤井 詩(大高)
- 8月 西三河選手権大会
 - 女子シングルス 第3位 鈴田こころ(大府南)
 - 女子ダブルス 第3位
 - 荏苒叶星(六ツ美北)・鈴田こころ(大府南)組
- 9月 新人戦全三河予選
 - 女子団体 第3位
 - 女子シングルス 準優勝・第3位・ベスト16
 - 女子ダブルス 優勝・ベスト8
 - 男子団体 第3位

卓球部

- 5月 高校総体西三河支部予選会
 - 女子学校対抗 優勝
 - 女子ダブルス 6組県大会出場
 - うち坂本(大塚)・新實(桜井)組が優勝
 - 女子シングルス 12人県大会出場 うち坂本(大塚)が優勝
 - 男子ダブルス 杉山(明祥)・山口(依佐美)組 県大会出場
 - 男子シングルス 3位 杉山(明祥)
- 5月 後藤杯卓球選手権大会(名古屋オープン)愛知県予選 予選通過
 - 女子シングルス
 - 新實佳乃(桜井)・坂本一華(大塚)・北川世菜(矢作北)・永見優(幡豆)・原田姫梨(安城南)
 - 女子ジュニア
 - 水野由南子(知立)・倉内心菜(平坂)・石川葵(桜井)
 - 女子ダブルス
 - 新實(桜井)・坂本(大塚)組・水野(知立)・倉内(平坂)組
 - 男子シングルス
 - 杉山こころ(明祥)
- 5月 高校総体県大会
 - 女子学校対抗 ベスト8
 - 女子シングルス ベスト32 3名
 - 女子ダブルス ベスト16 2組
 - 男子シングルス ベスト16 1名
- 6月 中部日本卓球選手権大会愛知県予選会
 - 女子ジュニア 推薦 水野由南子(知立) 倉内心菜(平坂)
 - 若瀬由奈(幸田南部) 榊原未菜(一色) 石川葵(桜井)
 - 予選通過 伊藤瑞南(城北)
- 6月 国民スポーツ大会 少年の部西三河支部予選会
 - 女子推薦 水野由南子(知立) 倉内心菜(平坂)
 - 若瀬由奈(幸田南部) 小山菜捺美(吉良) 新美菜(竜神)
 - 石川葵(桜井) 伊藤瑞南(城北)
 - 女子予選通過 榊原未菜(一色) 清水優花(西尾)
 - 長谷川亞未(矢作北) 庭村若菜(安城北) 矢野沙希(前林)
 - 大谷桃音(西端)
 - 男子推薦 杉山こころ(明祥) 山口大英(朝日)
 - 男子予選通過 梶川端功(西尾)
- 8月 西三河高等学校夏季卓球選手権大会
 - 女子シングルス 優勝 水野由南子(知立)
 - 準優勝 石川葵(桜井) 3位 倉内心菜(平坂)
 - 女子ダブルス 優勝 水野(知立)・伊藤(城北)組
 - 準優勝 倉内(平坂)・小山(吉良)組
 - 3位 石川葵(桜井)・新美(竜神)組
 - 若瀬(幸田南部)・榊原(一色)組
- 8月 愛知県私学祭卓球大会 女子高等学校の部 優勝
- 8月 東海卓球選手権大会愛知県予選 予選通過
 - 一般女子シングルス 新實佳乃(桜井)
 - 一般女子ダブルス 新實(桜井)・坂本(大塚)組
 - 倉内(平坂)・小山(吉良)組
 - 女子ジュニアシングルス 倉内(平坂)・小山(吉良)・水野(知立)・若瀬(幸田南部)・榊原(一色)・長谷川(矢作北)・清水(西尾)・石川(桜井)・新美(竜神)・伊藤(城北)
 - 男子ジュニアシングルス 梶川(西尾)

アーチェリー部

- 5月 愛知県高等学校春季アーチェリー大会(高校総体県大会)
 - 山田 陽彰(東山)・岡田 花歩(安祥)・澤田 潤(安城南) 出場
- 9月 愛知県ジュニアアーチェリー大会 新人の部
 - 三田愛梨(形原) 1位、高井爽清(竜北) 2位、大見柚英(矢作) 4位、山口莉菜(一色) 6位
- 10月 秋季アーチェリー大会
 - 総合の部(県大会出場選手)
 - 石原沙幸(刈谷南)・山田陽彰(東山)・岡田花歩(安祥)・佐野公香(刈谷南)・三田愛梨(形原)・山口莉菜(一色)・大見柚英(矢作)・高井爽清(竜北)
 - 総合団体 2位(山田、山口、三田)
 - 新人の部
 - 山口莉菜(一色) 1位、三田愛梨(形原) 2位、大見柚英(矢作) 3位、佐野公香(刈谷南) 4位、高井爽清(竜北) 5位
 - 新人団体 1位(山口、三田、大見)

バレーボール部

- 4月 高校総体西三河支部予選会 第5位
- 5月 高校総体県大会 出場
- 7月 愛知県高等学校バレーボール選手権大会西三河支部予選会 優勝
- 7月 県立高等学校男女バレーボール選手権大会 第7位
- 8月 愛知県高等学校バレーボール選手権大会 ベスト8
- 8月 下村杯争奪西三河総合バレーボール選手権大会 優勝
- 9月 全日本バレーボール選手権大会西三河支部予選会 優勝

ハンドボール部

- 4月 高校総体西三河支部予選会 3位
- 5月 高校総体県大会 ベスト8
- 7月 ハンドボール選手権大会西三河大会 優勝
- 8月 ハンドボール選手権大会県大会 ベスト8
- 8月 西三河地区高等学校ハンドボール選手権大会 4位
- 9月 碧海高校生ハンドボール大会 優勝

男子硬式テニス部

- 5月 高校総体西三河予選 団体戦出場
 - シングルスブロックベスト4 2名・ダブルスブロックベスト4 1ペア
- 8月 西三河テニス選手権大会 個人の部
 - シングルス予選 ブロック準優勝3名 本選に出場

女子硬式テニス部

- 5月 高校総体県大会 団体戦女子 2回戦
- 8月 西三河テニス選手権大会 個人の部
 - 女子シングルス予選 ブロック優勝 榊原ひかり(安城南)・宮原凛々(六ツ美北)
 - ブロック準優勝 神谷美月(六ツ美)・榊原若菜(栄)
 - 以上4名が本選進出
 - 女子ダブルス ブロック優勝 宮原(六ツ美北)・西口(平坂)組
- 9月 新人戦三河予選 県大会出場
 - 団体の部 県大会出場
 - 女子シングルス ブロック優勝 宮原凛々(六ツ美北)
 - ブロック準優勝 西口瑠那(平坂)・榊原若菜(栄)
 - ブロックベスト4 榊原ひかり(安城南)・神谷美月(六ツ美)・和田瑞希(安祥)
 - 女子ダブルス ブロック優勝 宮原(六ツ美北)・西口(平坂)組 準優勝 神谷(六ツ美)・和田(安祥)組

ダンス部

- 6月 <ラージチーム>
 - DANCE CLUB CHAMPIONSHIP vol.12中部地方大会 第2位 全国決勝大会出場
- 7月 全日本高等学校チームダンス選手権大会中部地区予選 第2位 全国決勝大会出場
- 8月 NFCC・全国ハイスクールダンスコンペティション 審査員長特別賞
- 7月 <スモールチーム>
 - 日本高校ダンス部選手権ダンススタジアム東海大会 第6位 全国準決勝大会出場
- 8月 全日本高校ストリートダンスクライマックス2024 全国決勝大会出場

男子サッカー部

- 8月 全国高校サッカー選手権西三河予選ブロック 優勝
- 10月 第103回全国高校サッカー選手権愛知県大会 ベスト32

女子サッカー部

- 4-12月 愛知U18女子サッカーリーグ県1部
- 5月 高校総体県大会 ベスト8
- 5月 LigaStudent東海北信越2024 参加
- 8月 愛知女子サッカー選手権(兼 皇后杯県予選) ベスト8
- 10月 第33回全日本高等学校女子サッカー選手権愛知県大会 ベスト8

吹奏楽部

- 8月 第79回東海吹奏楽コンクール(三重) 銀賞
- 9月 第67回中部日本吹奏楽コンクール本大会(豊田) 理事長賞(3位)
- 10月 第38回東海マーチングコンテスト(長野) 金賞・全国大会出場
- 10月 日本管楽合奏コンテスト全国大会 高校B部門(東京) 最優秀賞
- 11月 第37回全日本マーチングコンテスト(大阪) 出場予定

弦楽部

- 11月 日本学校合奏コンクールソロ部門 全国大会(千葉) ヴィオラ 永井奏丞(城北)・大谷凌(牟呂) 出場予定

合唱部

- 8月 愛知合唱コンクール 銀賞

演劇部

- 7月 中部日本高等学校演劇大会西三河第2地区大会 出場

書道部

- 9月 第71回県私学美術展 三河支部 出品

美術部

- 8月 アートフェスタ・愛知県高等学校総合文化祭 展示部門(美術・工芸) 出品 杉浦優梨花
- 9月 第71回愛知私学美術展 三河支部 出品
- 10月 第23回彩雲展開催

写真部

- 9月 第71回県私学美術展 三河支部 出品

Anjo Gakuen Highschool Newsletter 彩雲
Ayagumomo

2024
vol.132
発行日/11月11日



特集
学園祭

「命を学ぶプロジェクト」 一步前へ

令和6年4月から本校の校長を務めております熊谷です。私事になりますが、私は一昨年までの38年間、県庁に出向した時期も含めて県立高校に勤務していました。前任の熱田高校は、全日制課程が1学年8クラスと夜間定時制課程が1クラスあり、全校で延べ1000人余りの生徒が在籍する学校でした。それと比べましても、全校で1500名を越える本校の規模の大きさには驚かされました。と同時に、個々の生徒たちが持っているエネルギーには目を瞠るものがありました。去年副校長として赴任した当初から「安城学園は活力ある学校だ」と感じていましたが、その思いはさらに強まっています。9月27日と28日の両日に開催された学園祭では、それぞれのクラス企画の質の高さや楽しさ、展示された内容の深さ、ステージやホールで披露されたパフォーマンスの美しさと躍動感、そしてPTAの方々の力で活況を呈した模擬店の数々……。学園祭のあの盛り上がりは圧倒的でした。安城学園高校は、すてきな生徒たちが集い、心温かい保護者や同窓会の方々に支えられたすばらしい学校だというのが、私の率直な思いです。

さて私は、毎年7月になると「この夏にすること」と題して10余りの項目を紙に書き、それを一つずつ線で消していくという、小学生のようなことをしています。今夏の最上位の項目は「災害対応マニュアルの策定」でした。そんな折、8月8日の夕方に日向灘で発生した地震に起因して、この国で初めて南海トラフ地震臨時情報の「巨大地震注意」が発表されました。この日の帰り道でその情報を知り、私は一気に緊張しました。そして翌日に予定されていた部活動体験日の対応と、参加を予定された中学生にメールで連絡する手配を総務部と進めたことを記憶しています。

かつて1995年1月に発生した阪神・淡路大震災では、亡くなった方が6千人を越えました。その後、新しい耐震基準が浸透し「これほどの人が亡くなる地震はもう二度と起きないだろう」と思っていました。ところが2011年3月の東日本大震災では、その3倍以上の2万2千人（震災関連死を含む）を越える方々が、死者・行方不明者として数えられています。ご存じのように、津波が甚大な被害をもたらしました。

安城学園では「命を学ぶプロジェクト」として、その2011年から東北の支援に入っています。そしてこの13年間に延べ1300名を越える生徒と職員が現地に行き、今も現地との交流を続けています。私も令和5年の年末に、男子サッカー部に同行して石巻市の旧大川小学校を訪れ、お子様を亡くされた佐藤敏郎先生のお話を現地で聞きました。そこから得られた深い学びは、何としても「いまここに、いる生徒たちの命を守ることにつなげていかなければならない」と心しています。

話を「災害対応マニュアルの策定」に戻します。7月からの3か月を掛け、2度の職員会議を経て、令和6年版のマニュアルを作りました。10月21日には、このマニュアルを全校の生徒と保護者の方それぞれに配信し、非常災害時の対応について共通の理解を図ることを進めています。しかし、マニュアルには想定外の「落ち」があるのが常です。それを埋める作業を続けながらも、最後は「各人が状況に応じて最善の判断をして行動する」しかないと考えています。この「自分でよく考えて判断し、行動する力の育成」にこそ、教育の本質があると私は考えています。

時代の変化を受けとめながら、生徒一人一人の生涯にわたっての幸せを願って、本校の教育活動の継続と発展に尽力する所存です。これからもどうぞよろしくお願いたします。



安城学園高等学校
校長 熊谷 誠人

学園祭 2024 9/27(金)・28(土)



We can do anything 繋ぐ。私たちの絆

前期生徒会長 中川 涼花 (安祥)

今年度の学園祭は、昨年度に引き続き、学外公開を行い、本校生徒だけでなく保護者の方、地域の方、他校の友人など、多くの方々にも来場していただくことができました。学園祭に参加したすべての人が笑顔で楽しく過ごしている様子を見て、「学園祭の成功」を実感することができました。

学園祭テーマ「We can do anything 繋ぐ。私たちの絆」は、「私たちができること」「私たちにしかできないこと」「私たちがだからできること」ってなんだらうを考え、各クラスや部活動、実行委員会などが企画をつくり上げました。私たち自身も、来場して下さった方々も繋がりを感じることができた。そんな2日間になったと思います。

そして、昨年度に引き続き、学園祭期間中の携帯電話（スマートフォン）利用を認めていただくことができました。何度も話し合いを重ねて、どんなことが危惧され、自分たちはどう行動していけばいいのかを考え続けながら、学園祭当日に大きなトラブルがなく、参加するすべての人が気持ちよく過ごせたと感じることができたと考えています。

この学園祭でそれぞれが感じた「思い」や「繋がり」をここで終わらせてしまうのではなく、次に繋げてくれるととても嬉しいです。

笑顔が絶えない学園祭に

学園祭実行委員長 松田 瞬也 (桜井)

安城学園高校の学園祭へお越しいただきありがとうございました。今年の学園祭のテーマは「We can do anything 繋ぐ。私たちの絆」です。このテーマには私たち高校生には何ができるのか、高校生だからこそできることは何なのか。そして、私たちの繋がりや輪が広がればなんでもできるという思いが込められています。約4ヶ月間の準備期間で私たちには何でもできるんだ、ということを感じた瞬間はありましたか。

今年の学園祭は、コロナ禍を経て、誰もが本来の学園祭の様子を知ることがない中でスタートしました。しかし、全校生徒の頑張りやひとつに繋がり、当日は大いに盛り上がり、オープニングからエンディングまで笑顔が絶えない学園祭となりました。ここまで盛り上がった学園祭の場に、実行委員長として関わられたことを嬉しく思います。

ご協力いただいた全校生徒・先生方・保護者・地域の皆様、本当にありがとうございました。



Contents

- 2 巻頭言
- 3-5 学園祭
- 6-7 いのちを学ぶプロジェクト
- 8 探究 RST について
- 9 国際交流
- 10 商業科 インターンシップ
- 11 教科セミナー
フレッシュマン
キャンプ
- 12-15 部活動レポート

学園祭実行委員会 テーマ企画

西尾・蒲郡線の存続を問う！ 碧海市長選

安城学園高等学校 学園祭テーマ企画
安城鉄道に迫る 存続危機
 投票所には愛はあります
 碧海市 市長選挙
 安城鉄道・あんでつ
 存続か 廃線か 碧海市民あなたの選択は
 ● 会 場 安城学園高校視聴覚室
 ● 投票日 9月18日(水) 3年生
 19日(木) 2年生
 20日(金) 1年生
 ● 時 間 15:30~16:30
 ● 安鉄存続派 バス路線で対応 ● 安鉄廃線派 駅は街の顔

し、鉄道が人と人をつなぎ、地域をつくっていくことを伝えました。また、全校生徒で考えるきっかけをつくらせ、架空の「碧海市」の市長選挙の争点として、「西尾・蒲郡線」の存続を掲げ、「存続派」と「廃止派」の候補者が争う構図で、自分がどう考えるかを判断する取り組みになりました。9月の始業式で、予告映像を見てもらったうえで、地歴公民科の先生方のご協力を得て、「学園祭コラボ特別授業」を展開していただきました。少子高齢社会を迎える地域の課題や、公共交通のあり方について解説していただいたうえで、全校生徒に投票をしてもらいました。90%を超える投票率で、全校生徒の関心も高く、自分たちが望む地域の未来はどんなものなのかを、それぞれが考えるきっかけとなりました。

今年の学園祭テーマ企画は、「西尾・蒲郡線の存続を問う！碧海市長選」と題して、地域の未来をどうしていくかを自分たちで考えようと、公共交通機関の存続を切り口にした「模擬選挙」と、「朗読劇『ここに花咲け、三陸鉄道』」に取り組みました。

今夏、実行委員と顧問教員で、岩手県・三陸鉄道を訪れました。三陸鉄道は、40年前、旧国鉄の廃止対象となっていたローカル線を地元が引き受ける形で、全国初の第三セクター鉄道として開業し、地域住民の足として運行してきました。しかし、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受け、廃線もささやかれるなか、「なんとしても鉄道で復旧する」と、3年後の春、高校の入学式に間に合わせる形で、全線での運転再開を果たしました。私たちは、三陸鉄道運行本部長・金野淳一さんにお話をうかがい、震災当時の状況や、復旧に至るまでの道のりについて、お聞きすることができました。また、沿線の地域を訪れながら、三陸鉄道が地域の足としてどう存在しているのか、駅を中心に復興していくまちづくりの状況がどうなっているのかなどを実際に見てきました。

東北で学んだことを、朗読劇『ここに花咲け、三陸鉄道』として上演



朗読劇『ここに花咲け、三陸鉄道』感想より

普段、あたりまえのように使っている電車は、いつか急に使えなくなるかもしれないと考えると、自分は学校に通えなくなるし、どこにも行けなくなってしまう。毎日感謝しないといけないなと思いました。鉄道は人と人をつなぐすてきなものだと思います。なんか、すごい真剣に見てしまった・・・

日常にげなく私たちが使っているものでも、誰かにとってはかけがえない大切な宝物なんだな、と思った。震災は人の命を簡単に奪うから怖い。1日1日大事。「鉄道は人と人、町と町をつなぐ」ぐっときた。電車は、人をちがう場所に運ぶだけではないと分かった。

「鉄道は、町、人、夢をつなげる」という言葉はすごくいいなと思いました。キヨさんの話、すごくよかったです。

駅や列車を人々が尊敬することが鉄道を活性化のかなと思いました。津波を経験された方のお話や鉄道の映像をみると涙が出てきました。東北に行って、直接この目で見たいです。

鉄道はその町のアイデンティティだと改めて思い知らされた。鉄道は人の生きる希望になっていて、残したほうがいいと思いました。鉄道の存在は町と町を繋いで栄えていくと知り、感動しました。

全員、演技が上手く、内容がすんなり入ってきました。みんな三陸鉄道に思い入れがあり、復興するために努力していることがわかりました。私も電車通学ですが、人とのつながりはなし、思い入れは特にありません。地元にとって大切なものを守るために、大事なことは人のつながりだし、思い入れがとて大変だと思いました。

3年間、東北から学んだこと

学園祭実行委員会「テーマ企画」チーフ 平岩 真琴 (矢作)

私は、1年生のときから、3度にわたって、東北を訪れることができました。大船渡、陸前高田、気仙沼、南三陸、そして福島——。被災した地域を訪れ、現地の方々と出会うなかで、東日本大震災のことを自分事として考えられるようになりました。13年前の出来事を知るうちに、このことを次は私たちが伝えていかなくてはならない、それは、東北に限らず、この愛知でも、と思いました。

3年間を通して、東北の人たちはとても温かいと思いました。愛知から来た私たちが、岩手県大船渡市盛町の七夕まつりのボランティアに参加したときにも、分け隔てなく受け入れていただき、たくさんの思い出や楽しい経験をつくることができました。私は遠いところからも思いを馳せること、人と繋がること、知らないことを知り次に伝えていくことの大切さを学びました。東日本大震災の被害で何が起きたのかどう対応したのかを知ったからには、伝えなければならぬと思いました。

ずっと関わってきた、「福島ひまわり里親プロジェクト」の取り組みでは、福島はもちろん、地元・安城でも、多くの方々とのつながりのなかで、福島の未来のために活動に協力して下さる方々と出会うことができました。いただいたご縁が、枝分かれのように繋がっていき、誰かのために何かをすることの素晴らしさを学びました。

これからの未来は、次の世代を担う、私たちが考えていかなくてはなりません。そのために、これからも、自分が実際に見て聞いたことを、伝え続けていきたいと思っています。





命を学ぶプロジェクト

石川

能登半島ボランティア

丸山 浩徳

学校法人安城学園全体で取り組む事業として石川県珠洲市のボランティアが計画され、本校からは生徒・教員含め計4名が参加しました。今回のボランティアは珠洲市三崎町寺家にある須須神社の秋祭りの運営補助です。例年開催されている須須神社の秋祭りは日本最大のキリコが登場し、最大のものは高さ16.5m、重さ4tあり、総漆塗りで金箔と彫物で装飾された美しいキリコを担ぎ夜通し町内を巡行します。しかし、今年度の開催は1月の震災の影響によって「中止するべき」、「開催するべき」、「開催したくてもキリコを担げない」などさまざまな声があり、対立してしまった地域もあるそうです。そこで、今年度は折衷案としてキリコは倉庫から出し境内に並べるが、道路を動かさないという開催方法をとりました。ボランティアの最中に寺家地区の方と話す機会が多くあり、繋がりを作るために祭りにかける思い、家が津波で流されてしまった方の声、家が倒壊して引越しを余儀なくされたが祭りに戻ってきた方の声など、たくさんの生の声を聞くことができました。愛知に戻った約1週間後、能登は記録的な豪雨によりまたも甚大な被害に見舞われました。須須神社のキリコの倉庫は浸水、至る所で道路が陥没してしまったようです。1月の震災から9ヶ月経ち、ようやく復興への糸口を掴みかけた地域と住民の方を思うと胸が苦しくなります。愛知県で生活している私たちも災害に対する知識と備えは大切です。能登災害を他人事だと思わず、今後もできることを考え行動し、応援し続けていきたいと思います。



石川の災害の件

1年4組 ホダダニエラ ジオ (六ツ美北)

2024年9月13日、学泉大学と岡崎城西の皆さんと石川へ向かいました。途中、富山県の飲食店「オーリーブ」で食事をとりました。この店は、地震で被害を受けた石川県に無料で食事を提供してすごいと感じました。その後、珠洲市に到着。道がガタガタで不安を感じつつ、温泉を楽しんで旅館で宿泊しました。

2日目、須須神社へ向かうと、崩れた家々が目に入り、言葉を失いました。須須神社ではボランティア活動として、まず崩れた建物の周辺に安全のためのテープを張り、子供たちが危険な場所に近寄らないようにしました。また、神社の境内の清掃を行いました。作業を通じて地域の方々の復興への熱意を感じ、貴重な経験となりました。夜にはキリコ祭りが開催され、地域の人々と共に盛り上がりました。

3日目、街の状況を見学。復興の遅さに驚きました。訪問から1週間後、石川は豪雨に見舞われ、地域の人々の心が折れそうだと感じました。私たちがができる支援を続け、能登との繋がりを大切にしたいと思います。



命を学ぶプロジェクト

東北

「いつでも、来ていいんだからな！」

生徒会主任 山盛 洋介

学校法人安城学園全体で「命を学ぶプロジェクト」に取り組む一環として、今夏も、生徒会役員・学園祭実行委員会を中心とする生徒11名と教職員3名で、東北の地を訪れました。13年前の東日本大震災以降、数多くの生徒・教職員が東北とつながり、東北から学び、東北とともに未来を考えていく取り組みを続けていますが、今年も、震災直後からつながりを続けている岩手県大船渡市の「盛町灯ろう七夕まつり」に参加し、現地の方々と交流しながら、多くの学びを得ることができました。

盛町の七夕は、毎年、趣向を凝らした灯ろう山車が名物。「よーい、よーいどお」の掛け声にあわせて、各町内の山車が曳き回されます。本校生徒たちも、地元の方に交じって田茂山地区の山車を曳かせていただいたり、「道中踊り」に一緒に参加したり、地元商店街の夜店を手伝っていただいたりと、2日間にわたって、楽しみながら、祭りを盛り上げてきました。

また、旧気仙沼向洋高校(震災遺構)や南三陸町の旧防災庁舎、陸前高田市の「奇跡の一本松」、大船渡津波伝承館、石巻市立大川小学校などをめぐり、震災の記憶に学ぶとともに、現地の方々の思いに接する場ともなりました。

震災から13年、いまの高校生たちには、当時の記憶がリアルタイムで残っているわけではなく、すでに「過去のこと」になり始めています。これは、現地でもそうだとか、自分が体験していないことや、記憶にないことを知り、誰かに伝えていくということは簡単ではありません。しかし、体験された方々と出会い、「ナマ」の現実に触れる中で、思いがこぼれ、時空をこえて、生徒たちの頭と心にしみこんでいきます。現地を訪れ、さまざまな方々と出会うことで分かること、感じることも、教科書だけ、ネットだけでは「ピン」とこない空気感や「思い」。そこから生み出されるものがたくさんあると確信しています。現地の方々の「いつでも、来ていいんだからな!」という言葉は、私たちに温かく迎えてくださる気持ちと同時に、「東北のことを、いつまでも忘れないでくれよ!」というメッセージだと、受け止めています。

学園祭開会式での「繋ぐ。プロジェクト」ステージでは、東北を訪れた生徒たちが、そこで学んだこと、考えたことを、全校に向けて発信してくれました。今後も、来年3月におこなう予定の「3・11もしびプロジェクト 東北を思う日」などの機会に、これらの学びを多くの方々に還元していきたいと考えています。



学んだことを教訓にして生かしていく

1年4組 加藤 美桜 (安城西)

今回の東北の旅で、津波の恐ろしさを改めて思い知りました。実際に向洋高校や大川小学校を見学して、あまりにも悲惨すぎて、見た瞬間衝撃で言葉が出ませんでした。それまで、どのような学校、教室だったのか分からないくらいでした。実際に行かないと分からないことばかりで、貴重な経験ができました。今まで、私は、東日本大震災のことをあまり深く考えていませんでした。震災の時、私は2歳で、記憶もなく、実際どれぐらいの地震なのか理解していませんでした。しかし、今回、実際に現地を見て、多くの人が犠牲になったことを知り、深く考え、自分のこれからの行動も見直すべきだと思いました。

東日本大震災は揺れはもちろん、津波で多くの人が犠牲になりました。高台や山が近くにあっても、亡くなってしまった方も多く聞き、なぜすぐに逃げなかったのか疑問に思っていました。きっと大丈夫という思い込みで逃げず、気づいた時には津波に襲われ亡くなってしまおう人が多かったと聞き、納得しました。だからこそ、私たちは、ここで学んだ教訓を心に、もっとも身近な南海トラフ地震に備えておくべきだと強く思いました。

今まさに、宮崎県や神奈川県で震度6や5の大きい地震が連続して起きています。この東北の旅で学んだことをいかして再度避難経路を確認したり、家族との集合場所、防災グッズの確認、買い足しなど行い、地震や津波に備えてこれから生活していきたいと思いました。



オンライン留学4年目

「大変だったけど楽しかった1週間」 1年1組 松本 メウ (高浜)

オンライン留学に参加した1週間は、とても大変でしたが、同時に楽しく、貴重な経験でした。毎日、仲間と一緒に目標に向かって頑張り、互いに励まし合いながら乗り越えた日々は、忘れられない思い出となりました。

特に、英会話をたくさん経験できたことが嬉しかったです。世界中の人々と交流する機会があり、異文化に触れながら英語でのコミュニケーションに挑戦しました。最初は難しさも感じましたが、次第に自分の力で話せるようになっていくのが実感でき、とても達成感がありました。

また、仲間が一生懸命頑張る姿を見て、私自身も大きく励まされました。お互いに支え合いながら成長することができたのは、とても心強かったです。この経験を通じて、英語をもっと頑張りたいという強い気持ちが湧いてきました。



3年連続で海外留学実現 ニュージーランド

「2回目の短期留学を経験して」 3年1組 横山 史歩 (鶴城)

今回のホームステイ短期留学に参加して、自分自身の成長を大いに実感することができました。昨年度のイギリス留学に比べて、異なる発見や学びがたくさんあり、留学の度に新しい視点を得られることに感動しました。



短期留学をきっかけに英語力がとても上がり、そのおかげで英検準1級に合格できたと思っています。今回の留学では、その成果を存分に発揮することができ、以前よりも自信を持って英語を使うことができました。留学での経験が確実に自分の成長につながっていることを感じ、さらに英語を学びたいという気持ちが高まりました。

安城学園高校の英語教育

「はじめて高校の授業を受けてみて」 1年2組 松田 アナ (西端)



高校の英語の授業は思った以上にレベルが高く、授業の進むスピードも速いため大変です。しかしその分、自分が成長できている実感があり、英語をもっと勉強したいという意欲が湧いてきました。

特に、英会話の練習が多く取り入れられており、実際に使える英語が身についてきたと感じています。授業内での会話の練習を通じて、より自然な表現や反応を学び、実生活でも活かせる力が少しずつ身についてきました。これにより、英語を話すことへの自信も高まっています。

さらに、多国籍の生徒が在籍している環境で、様々な文化に触れられることも魅力的です。異なる背景を持つ友達と交流することで、英語だけでなく、世界中の文化や価値観についても学ぶことができ、自分の視野が広がるのを感じています。

私は高校を卒業する頃までに、英検準1級に合格したいという目標を持っています。こうした目標を持てるようになったのは、周りの友達や、丁寧に指導して下さる先生の支えのおかげです。

オンライン英会話5年目

「世界が身近に感じられた経験」 3年10組 菊池 優斗 (安城南)

オンライン英会話を通じて、日本にいながら世界中の人々と交流できることは、本当に素晴らしい経験でした。気軽に英会話を練習でき、様々な国の文化や考え方に触れることで、毎回新しい発見があります。

大学入試の勉強では、どうしても文法や長文読解といったインプット中心の学習になりがちです。しかし、オンライン英会話のおかげで、英語を「使える言語」として身につけることができるようになりました。実際に会話の中で学んだことを活かすことで、英語を話す自信も少しずつついてきました。



また、オンライン英会話を続けることで、発音も大きく改善しました。ネイティブスピーカーや様々な国の話し手と実際に話すことで、自分の発音の癖に気づき、それを修正する練習を積み重ねることができました。英語らしい発音で話せるようになったことは、自信につながっています。

アメリカ、フィンランド、スイス、フィリピンの留学生の受け入れ

「留学生橋渡しプログラム2年目」

国際交流主任 国分 涉悟

昨年度より始まった『留学生橋渡しプログラム』（留学生を受け入れる前から本校の生徒と日本語によるオンライン交流をするもの）で、交流の機会が増え、活発な国際交流活動ができるようになりました。

現在はフィンランドから留学生を受け入れていますが、この生徒も1年間にわたって事前にオンライン交流をしてきたこともあり、日本語能力が向上し、学校生活を順調にスタートさせることができました。授業も全部問題なく受けられています。

コロナを乗り越えた今、世界各国から多くのオファーがあり、本校の国際交流活動が賑わっています。本校の生徒も様々な国と繋がりをもてるので、豊かな国際的意識が芽生えていると思います。これからも多くの国から留学生を受け入れることで、国際貢献をしていきたいです。



英語コース合宿

今年度の1年生の英語コースは2クラスになり、学園祭の企画を合同で取り組むことに決めました。話し合いを進める中で、みんな集まって学園祭の準備をしたいという気持ちが強くなり、1泊2日の英語コース合宿を行うこととなりました。

1年1組 森井 ユキオ (安城南)

私が英語コースに入学したのは、もっと英語を勉強したいという強い思いがあったからです。これまで英語に触れる機会があったものの、さらに実力を高めたいと考え、英語を集中的に学べるこのコースを選びました。勉強の内容は予想以上に難しく、日々課題に追われることもありますが、それ以上に学びが充実していて、とても良い経験を積むことができています。

特に今回の英語コース合宿では、これまで以上にクラスメイトとの仲が深まりました。みんなと同じ目標に向かって協力し合うことで、互いを理解し、サポートし合う大切さを実感しました。普段の授業では感じられなかった一体感が、この合宿を通じて強まったように思います。一緒に学び、生活する中で、互いに助け合う姿勢が自然と生まれ、それがクラス全体の雰囲気をもっと良くしてくれました。

今回の合宿では、特に私たちが取り組んでいるネットアートのプロジェクトが印象に残っています。このアート作品は、体育館のステージに張る大きなネットを使って表現するもので、英語コース2クラス全員で協力しながら制作しています。テーマとして選んだのは、ピカソが描いた「ゲルニカ」です。この作品は、戦争の悲惨さを表現した名作であり、私たちはそれを通じて、今も世界で起きている戦争や紛争について考えるきっかけを提供したいと考えました。

ピカソの「ゲルニカ」は、スペイン内戦中の爆撃を描いた作品ですが、そのメッセージは時代を超えて今もお強く訴えかけてきます。世界中で起きている紛争や戦争が終わらない現実を考えさせられるこの作品を、ネットアートという形で再現することには大きな挑戦がありました。私たちは、アートを通じて人々に平和の重要性や、暴力の無意味さを訴えることができると願いながら制作に取り組んでいます。



このプロジェクトは、単なる美術作品を作るだけでなく、英語を通して世界の問題を学び、深く考える機会となりました。作品の説明やメッセージを伝えるために英語を使う場面も多く、英語力を高めるとともに、異文化理解や国際的な視野を養うことができたと感じています。ピカソの作品を題材に選んだことで、クラス全員が真剣に世界の現状について向き合い、そのテーマに基づいて議論を重ねたことは、合宿の中でも特に印象的でした。

総合的な探究の時間

学習指導要領の改訂により、高等学校の「総合的な学習の時間」は、「総合的な探究の時間」に変更されました。



2年生総合的な探究 総合的な探究の時間を通して

2年5組 中根 優衣 (若園)

総合的な学習の時間では、1学期、興味関心のある分野で班を組み、その分野で活躍する方にアポイントメントを取り、取材を行ないました。心理に関心を持つ私たちは、安城学園高校でスクールカウンセラーをされている深津先生にお話を伺いました。仕事で大切にしていることや、高校生へのメッセージを穏やかに、一言一言大切にお話ししていただきました。その中でも、「カウンセラーの私がなくなると、現実の世界に戻れること、私自身を忘れてくれたときが一番嬉しく、心に残っています」という内容が心に残りました。予想外の内容に最初は驚きましたが、心の底から納得しました。直接お会いしたからこそ知ることができた経験です。

2学期は、地域に出て課題を発見して、解決策を模索していきます。私たちは、安城市 SDGS 共創パートナー制度を活用して、就労継続支援事業所「工房げんせき」様と協働する予定です。多くの方が幸せになるように何度も話し合いを重ねて、提案をしていきたいです。経験は人生を豊かにします。経験したからこそ共感できることがたくさんあります。だからこそ今後も多くの方との出会いを大切にしていきたいです。

リーディングスキルテスト RST を実施しました。

学習指導部長 木全 孝次

6月17日(月)の7限目に全校一斉に「リーディングスキルテスト」を実施しました。

「リーディングスキルテスト」とは、一般社団法人教育のための科学研究所により実施されているテストです。文章に書かれている意味を正確にとらえる力(基礎的な読む力・読解力)を測定・診断するツールです。読解プロセスごとに6つのタイプから構成されており、それぞれのタイプで読解の能力値を診断しています。

系列校である愛知学泉大学では数年前よりこのテストを実施しており、昨年度実施された学校法人安城学園全体の研修会で、教育のための科学研究所の所長である新井紀子氏の特別講演がありました。それを受けて本年度法人全体でこのリーディングスキルテスト実施することになりました。

このテストは、「読解力」を多面的に測ることで、つまづきの原因となる学習スキルの習得不足、基礎的な知識の欠落、気づかない不適切な学習行動といったさまざまな阻害要因が見えてくるといわれています。

テストの結果は、受検直後に生徒本人のiPadにも表示され、後日担任からも印刷された個票(6つ観点からの診断とアドバイス)として生徒に渡されています。



総合的な探究の時間 Internship Report

商業科BIGプロジェクト インターンシップ体験報告

商業科教諭 酒井 美津子

夏休み期間を利用し、商業科1年生60名全員が22事業所に分かれ、インターンシップ体験学習を行いました(7月下旬と8月上旬・下旬で各2~3日間)。

「総合的な探究の時間」のなかで、1学期ではビジネスの視点から社会のしくみを知り、社会人インタビューやマナー講座などの社会人講師講座、企業調査や自己分析などを経て、働くことへの理解を深めてきました。事前学習ではPDCAサイクルを意識した体験となるよう目標を設定しました。

体験先は農業・製造・建築・販売・福祉・行政・飲食・健康・美容・動物・まちづくりなど多岐に渡り、業界だからその学びはもちろん、どの職種でも共通する仕事を通じて得られる学びもあり、様々な経験をすることができました。コロナ禍でも途切れず13年間取り組んでいることに感謝致します。



体験の中で生徒は「自分たちで一から考えることによって仕事を終えたときの達成感や満足感を知ることができた」「自分から」を目標に頑張ることで、いつもできないようなことを進んでやるのができた”など、働くこと・他者と関わること・相手のことを思いやること・チームで協力して一つのことをやり遂げることなど、充実した体験となりました。

年間を通して取り組むBIGプロジェクトは、2学期以降に各自の体験まとめ・発表をし、自己や社会の未来を考える時間となります。自己理解・他者理解・社会に関心を持つこと、授業を通して新しい視点を獲得することで、当事者意識を育み、課題解決能力の足掛かりとなるように取り組んでいます。

生徒の感想

商業科1年1組 夏目 純佳 (矢作北)

私はインターンシップでパンのトラ安城店の体験をさせていただき、普段ではできない体験や学びが多くありました。パンのトラでは、スタッフさんがいつでも笑顔で仕事をしていて、またパンを購入したお客さまもみんな笑顔で帰っていくのを見て、接客業って素敵だなと思いました。今回体験させていただいたことで、特に印象に残っているのは、パンの成形です。成形ではクリームを包んだり、生地を伸ばしたりしました。最初はとても難しく苦戦しましたが、丁寧に教えてくださったおかげで、綺麗にできたときにとても達成感を感じました。

今回のインターンシップで学んだことを、今後に活かしていきたいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。



商業科1年2組 岩附 美華 (矢作北)

私が美容院Cubeさんのインターンシップ体験で感じたことは、お客様への気遣いが一番大切ということです。2日間の体験の中で、お客様への気遣いを忘れたことは一度もありません。お客様が常にリラックスできる時間にするために、丁寧に接客することができました。シャンプー体験・カラー塗布・パーマなど、高校生ではインターンシップでしかできない貴重な体験をすることができ、初めての経験でたくさん学べました。美容師さんなど接客のお仕事は、お客様とのコミュニケーションが大事で、私は人と話すことが好きなので、将来接客業に就いてみたいと関心を持ちました。

インターンシップを通して多くの方と関わることができ、自分の将来のための勉強になりました。このような機会を作ってください、とても感謝しています。ありがとうございました。

教科セミナー報告 Workshop Report

3年8組 久野 里奈 (東山)

国語
セミナー



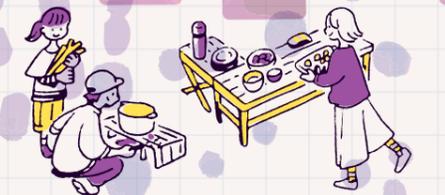
私が今回、広島セミナーに参加しようと思った動機は、昨年度にもセミナーに参加して、学友たちと沢山の学びを深め、思い出を作ることができたことが心に強く残っており、今年も参加したいと考えたからでした。直接的な表現をしますが、私は元々爆心地の近くなどにいた人々は例外なく皆原爆の被害によって亡くなっているのだと思っていました。ですが、事前学習で見た「この広い世界の片隅に」や、一学期の国語科の授業の題材である「夏の花」、また昨年度の修学旅行で訪れた長崎で聞いた永井隆博士の生涯についてのお話の内容では、爆心地からほど近い場所にいた人だったとしても無傷とまではありませんが、あまり大きな怪我をしていない状態で生き延びた人だっているのだと知り、新しい知識を増やすと共に大きな衝撃を受けました。それを踏まえ、今回の広島で見た爆心地付近のジオラマでも形を保っている建物がいくつかあり、このような建物の中にいた人は助かったのかな?等のことを考えながら見る事ができました。また、そうして生き延びた人が今の私たちに当時のことを伝えてくれているのだということを改めて実感しました。そして、今後は私たちが下の世代に伝えていかなければならないと考えました。

2年10組 可知 由衣里 (碧南南)

国語で広島原爆資料館のリニューアルについての文章を習ったとき、自分は原爆や広島について全然知らないということに気づきました。自分の目で資料館や原爆ドームを見て、どんなことが起きたのか細かく学びたいと思ったので参加しました。国語の授業で、原爆再現人形が撤去されて実在する証拠のみを展示するようにリニューアルされたことを学びました。また、サマーセミナーで原爆の絵の展示を見て、想像を絶する悲惨さを感じました。ネットでは、広島カープが愛される理由を知りました。原爆ドームを間近で見たとき、衝撃を受けました。被爆する前の建物の形を知らなかったため、被爆前後の写真を見比べたとき、もっと衝撃を受けました。立派な建物が、一瞬にしてこんなに悲惨な状態になってしまうんだ、と原爆の恐ろしさを感じました。広島原爆資料館は苦しさや驚き、悲しさなどで言葉が出ませんでした。教科書では見たことのないような、火傷や遺体の写真、被爆者の遺品をみて、原爆は本当にたくさんの人の命を奪った、本当に許されないものなんだと再認識させられました。海外の人達が、無言で真剣に資料を見ていました。式典に参加したことで、過去から未来に繋げていく広島を直に感じました。そして、平和とは何か考え続け、平和を目指していくことが大切だと学びました。



フレッシュマンキャンプ Freshman Camp



フレッシュマンキャンプ、通称FCは入式からわずか8日後に始まった1泊2日の宿泊行事です。まだまだお互いに自己紹介もままならぬままのヤングたちが、寝食をともにすることで集団作りと仲間づくりを学ぶことが目的です。クラスの目標を決める討議をしたり、レクリエーションで体を動かして楽しんだり、一緒に食事を作ったり、様々な体験を共有することができました。もう一つ大きな活動は先輩のスピーチを聞くことです。クラスには2人ずつ3年生のアシスタントが同行します。討議やレクリエーションを手伝うだけでなく、1日目の夜には先輩たちが自身の経験から高校生活を語ってくれます。「一歩踏み出そう」「目標を持って勉強しよう」「部活に全力で打ちこもう」というメッセージは1年生の心に火をつけ、帰ってきてからの学級役員決めに大きな影響を与えてくれました。お互いを良く知らないまま始まるキャンプは不安もあるけれど、ここで一気にクラスのまとまりができるのも事実です。一時はコロナでなくなったFCがこうして続けられて、やはり良いものだと思えています。



部活動Report

2024年4月～2024年11月

陸上競技部

東海9位の悔しさから、 全国6位入賞への成長

3年5組 磯貝 洋聡 (福地)



僕は2年生の東海大会が走り幅跳び9位でインターハイには出られず、そこで本気で悔しくて、来年は日本一になってやるという覚悟と闘志を燃やしました。今年初めて掴んだ8月のインターハイの舞台はいつもの試合とは違う緊張感がありましたが、試合を前に体を動かしているうちに、不安は消え自信に変わっていくのを感じました。予選を1本で超えることができず焦る気持ちもありましたが、2本目の跳躍で決勝を決め、決勝の3本目の跳躍前までは9位と入賞圏外でしたが、3本目の跳躍はドキドキを楽しむことができ自己新記録となる大きな跳躍で全国6位入賞となりました。キャプテンになってから、みんなの手本となるよう頑張りと、仲間を鼓舞しながら一緒に成長してきたことは価値が大きいと思いますし、家族が僕の結果に喜んで笑顔を見せてくれたことが、僕の喜びでもありました。

愛知県新人砲丸投げ 自己ベストで優勝

1年13組 片桐 舞 (大高)

チームは9月の西三新人大会で総合優勝し、県新人も頑張ろうと熱気と勢いを感じる雰囲気でした。私もチームに貢献したい強い思いで砲丸投げ優勝を目指していました。予選を2位で通過した時には焦りもありましたが、仲間からの声援、みんなと戦っている、みんながいる、という仲間の存在に勇気もらい、自己ベストを投げ優勝することができました。仲間からの「すごい!」「おめでとう!」が嬉しくて仲間と頑張る喜び、チームに貢献できた喜びを感じました。導いてくださった先輩方の存在に感謝です。この仲間に出会えてよかったと思います。来年は全国大会出場・入賞を目指して切磋琢磨できるこの仲間と頑張ります。



U20日本陸上競技選手権大会出場 ・インターハイ出場

3年2組 橋本 清愛 (刈谷東)

6月のU20日本陸上競技選手権大会は私の人生の中で初の全国大会出場でした。出場が決まった時は嬉しかったものの、全国大会は今までの大会とは全く違った世界で緊張しました。結果は納得のいくものではなかったけれど初の全国大会出場は良い経験をしたと思います。私は高校入学時の自己ベストは13秒台でした。なんとか先輩たちに追いつこうと必死でしたが、2年生の時は怪我をしたことで普段の練習に参加できず、試合にも出られず、記録も思ったように伸ばせ



ないなど悔しさがありました。しかし、全国大会出場の夢があり怪我の中でも諦めずに練習を続け、掴んだ全国大会出場でした。5月の愛知県高校総体の100mでは優勝を勝ち取ることができ、インターハイにも出場することができました。そして私の今後の最大の目標は全力優勝です。今後もこの目標に向かって、自分の可能性を信じ、頑張っていきたいと思います。

西三新人男女アベック総合優勝

2年10組 岡本 紘太郎 (明祥)

9月の新人戦、全国で活躍する偉大な先輩方が抜け不安もある、世代交代した対抗戦。僕は新キャプテンに任命されたが、みんなの前に出て引っ張ることは得意とは言えない。キャプテンとして何をすればいいのか、どうチームを引っ張ればいいのかわからないことだらけで戸惑いの方が大きかった。僕は、僕自身にも仲間にも「全力で応援すること、1点でも多く取ること」を声に出し頑張った。西三河男女総合優勝の結果を知ったときは喜びよりも安堵した気持ちの方が大きかったことを覚えている。僕個人は100m優勝、200m3位、4x100mR2位と成長を感じられる結果で貢献できた。なぜ僕がキャプテンになったのか、先生からは「手を抜かず練習に向かう真剣な姿勢、大きな声で練習を活気づけチームの雰囲気をよくしてくれる存在だからだ」と僕を評価してくださった。今後も僕なりの努力で伝統あるチームを支えリードしていこうと思う。



逆襲の春に向かって

監督 増永 和太

新チームが始まり、先輩達が無気なくやっていることがいかにチーム思いであり、チームのためになっていたかを思い知った。なかなか波に乗れず、苦しい船出となったが苦勞しながらも県大会を決めた。しかし、苦勞して勝ち取った県大会はあっけなく終わってしまい、さらなるチーム力向上が急務である。秋に経験した悔しさをやり返すため、今は彼ら一人一人が持っているエネルギーに期待をし、春以降の逆襲に備えたい。そして、夏に強い安城学園を今年も巻き起こす。

女子バスケットボール部

感謝の気持ちで頂点へ

3年6組 杉本 七海 (平井)

インターハイ予選では3位という悔しい結果に終わりましたが、その経験を糧にチーム全員でALL AICHIに向けて互いに切磋琢磨し、高め合ってきました。日々の練習では改善すべき点を話し合い、常にコミュニケーションを取ることでチーム力を向上させてきました。夏の練習を乗り越え、心身共に成長することができたと思います。ALL AICHIは厳しい戦いが予想されますが、チーム力で勝ち取り、ウィンターカップへの出場権を掴みます。これまで積み重ねてきた練習の成果をコートで最大限に発揮し、日々ご指導くださる先生方やコーチ、離れていても一番に応援してくれる家族への感謝を忘れず、全力で戦い抜きます。応援よろしくお願いします。



男子バスケットボール部

全国への挑戦

3年4組 松永 隆完 (上野)

自分たちは新人戦で地区大会、県大会と目標としていた結果を残すことができず、非常に悔しい思いをしました。その悔しさを糧に、部員と何度もミーティングを重ね、何が自分たちに足りていないかを話し合い、チームの課題だけでなく、個々の課題にそれぞれが向き合いました。その結果、夏のインターハイ予選では愛知県3位という結果を残すことができました。集大成となるウィンターカップ予選では、全国大会出場を目指して頑張っていきます。



女子サッカー部

19代主将として

3年6組 梶川 真鈴 (碧南中央)



2023年10月28日。「19代目のキャプテンは真鈴でいきます」と発表される前、正直自分がキャプテンになるなんて1ミリも思っていなかった。こんなに未熟な私がキャプテンをやっているのかという不安な気持ちでいっぱいだった。まずは2か月後の新人戦に向けて先輩方が残してくださったベスト4を維持することを目標に練習に励んだ。しかし、迎えた新人戦。準々決勝を0-2で敗戦。ここで私たちはベスト4落ちをした。練習をしていく中で気持ちのズレが生じ、チームで一つの目標に向かって練習に取り組むことがどれほど難しいことなのか実感した。皇后杯、高校選手権でも結果がついて来ず、目標としていたベスト4入りは果たせなかった。しかし、チームとして練習していたことが発揮できた時や、点を取った時は何にも変えられない喜びを感じられた。喜びよりも苦しい思い出の方が多かったけれど、このメンバーだったからこそやり切れたと思う。たくさんの人に支えられ、ここまで来ることが出来た。一番傍で支えてくれたチームメイトには感謝しかない。最後までついてきてくれてありがとう。

高校サッカー人生

3年11組 坂口 蓬 (葵)

私の青春の大部分を占める部活動にとうとう終わりが来ました。この三年間で私は気づいたことがあります。一つ目は「毎日続ければ力になる」ということです。私は毎日行う基礎トレーニングにこだわってきました。入部当初は基礎トレの多さに驚き、面倒くさいと思っていました。しかし、ある練習試合で自分のトラップミスからボールを奪われて失点に繋がったことがありました。それから私は基礎に対する意識が変わりました。ボールに触れる足の角度や力加減など細かい部分に注目して、とにかく丁寧に取り組みました。今では基礎という土台をしっかりと作っておかげでプレーの幅が広がり、サッカーがもっと楽しくなりました。二つ目は「仲間の大切さ」です。2年生の頃、試合で怒られた時に「気にしないで、と先輩に声をかけてもらったことがあります。それまでの私は、ミスをしてからの気持ちの切り替えが苦手でした。ですが、先輩のおかげでとても安心することが出来、気持ちをパッと切り替えられたのを覚えています。また、きついランメニューでは、終わった後に全員でナイスファイトと声を掛け合いながらハイタッチをします。私はその瞬間がとても好きです。みんなで一緒に走って乗り切ったのだと強く感じ、1人じゃないと思わせてくれるからです。これからもこの三年間の経験を活かして、何事にも前向きに謙虚に取り組んでいきたいです。



野球部



男子サッカー部

第103回全国高校サッカー選手権西三河予選 ブロック優勝

3年4組 野村 康介 (安城西)



僕たちは、第103回全国高校サッカー選手権大会西三河予選でブロック優勝をしました。今大会は天気との戦いもあり、2回戦、局地的豪雨と雷鳴により湖のようなグラウンドの中、中断なども繰り返し、メンタル的にも大変難しい試合でした。しかし、応援してくれるチームメイトや家族の力もあってチーム一丸となり、知立東を5-1で破りました。逆に県大会決定戦では気温30度を超える猛暑の中で厳しい試合でしたが、全員で走り切り安城東を2-0で破り、県大会出場を決めることができました。選手権は4年ぶりの県大会です。僕たち3年生は高校サッカー集大成の大会になります。最後まで全力で楽しみたいと思います。

ダンス部

ラージチーム

3年10組 高木 陽詩(新川)



私たちは、去年の全国大会出場という貴重な経験を活かし、2年連続の全国大会出場という目標を掲げました。最初は、作品中のそれぞれの役の特徴を理解し演じきるための研究から始まりました。作品のテーマとダンスの構成バランスや短時間での着替えの難しさ、いかに観客の方を作品の世界観に引き込むか、悩むことも多くありました。しかし誰1人諦めず、完成度を高めるために作品と向き合い続けました。

大会シーズン中、体調不良や怪我によるメンバー交代や、なかなか結果に繋がらない悔しさもありました。しかし、全員で支え合い、高め合うことで乗り越え、2つの大会で全国大会に進むことができました。

自分たちで創り上げた作品を、全国の舞台上で楽しんで踊ることができ、とても良い経験になりました。作品を創り上げるために、たくさんの方の協力と応援がありました。本当にありがとうございました。今後もダンス部の応援をよろしくお願いします。

スモールチーム

商業科3年2組 杉田 琴音(鶴城)

この夏、私たちは全国大会出場を目標に日々の練習を重ねてきました。曲、振り、構成、衣装など1から自分たちで考え、一つの作品を作り上げました。

最初の大会では、予選敗退という結果で悔しい思いをしましたが、その気持ちをバネにメンバーで話し合いをし、振りや、構成を考え直し、より良い作品を作るために練習に励みました。その結果、2つの大会で全国大会に進出することができました。

3年最後の大会で、このような結果を残すことができ本当に良かったです。たくさんの方の応援をありがとうございました。今後もダンス部の応援をよろしくお願いします。



合唱部



コンクールを終えて

2年2組 本田 結衣(朝日)

私たちは、8月に行われた愛知県合唱コンクールに出場し、銀賞を受賞しました。今年は全曲、外国語の曲にみんなで挑戦をしました。言葉はわからなくても、その曲の持つ風景をイメージし、聴いている方々に伝わるように練習を重ねました。コンクールでは、他の高校生の合唱を聞き、表現の仕方や曲想の付け方にとてもいい刺激を貰うことができました。私が他の高校の合唱を聴いて感動したように、私たちも聴いてくださった方々の心を動かすような合唱を目指して今後も活動していきます。応援よろしくお願いします。

美術部

令和6年度アートフェスタ・愛知県高等学校総合文化祭

2年4組 杉浦 優梨花(碧南東)

美術部では9月開催の私学美術展、1月開催の高文連展に作品を出品しています。特に高文連展では投票選考から選出されると県代表となり、全国高等学校総合文化祭へ出品することができる重要な展覧会です。今回、高文連西三河支部展で県代表への候補作品に選んでいただき、8月20日～8月25日まで愛知県芸術文化センター美術館で開催された「令和6年度アートフェスタ・愛知県高等学校総合文化祭」展示部門(美術・工芸)に出品いたしました。来年度は県代表に選んでいただけるように、部員みんなと切磋琢磨しながら満足いく作品ができるように頑張りたいと思います。



弦楽部 Anjo音楽のある一日出演&日本学校合奏コンクール全国大会ソロ部門2名出場決定!

3年1組 新實 凜子(六ツ美北)



10月26日にAnjo音楽のある一日でまちなかライブを行いました。沢山のお客様が足を止めて聴いて下さり、あたたかい雰囲気の中、部員も演奏を楽しむことができました。この日に限らず、弦楽部では東北演奏旅行や地域交流コンサートを行うなど、地域社会と音楽を通して繋がり、聴いてくださる方々に楽しんでいただけるよう日々練習に励んでいます。また今年には11月9日に千葉で行われる日本学校合奏コンクールソロ部門に、ヴィオラ2年の永井奏丞と大谷凜の2名が全国大会出場します。心に残る演奏を目指し頑張ります。応援よろしくお願いします。

吹奏楽部

東海マーチングコンテストで「金賞・全国大会出場」

3年2組 高橋 春奈(安城南)

10月12日(土)に長野市ビックハットにて行われた「第38回東海マーチングコンテスト」高等学校以上パレードコンテスト部門において金賞を受賞し、11月17日(日)に大阪城ホールにて行われる「全日本マーチングコンテスト」に推薦して頂きました。座奏のコンクールと並行して大会の練習を行ない、例年よりも少ない人数で挑まないといけないという大変さもありましたが、学年関係無く助け合い、全員の絆を大切にしていけることができました。今年も部員全員で全国大会に出場することができました。



大阪城ホールで最高の安学サウンドを届けられるよう努力していきます。応援よろしくお願いします。

管楽合奏コンテスト全国大会で悲願の「最優秀賞」

3年6組 岩田 心渚(犬山東部)



10月27日に文京シビックホール(東京都)で行われた日本管楽合奏コンテスト全国大会・高校生B部門において最優秀賞を受賞しました。部員全員で取り組んだ最後の座奏のコンクールで高い評価をいただけたことは、自分達の大きな自信に繋がりました。

これからも聴いてくださる皆様に私たちの想いをお届けできる様、日々努力を怠らず、練習を重ねていきたいと思っております。これからも応援よろしくお願いします。

箏曲部

老人ホームで箏曲の音色を楽しんでいただきました♪



2年11組 榎原 実紅(安城北)

私たち箏曲部は、7月に安城市内の老人ホームで演奏会を開催しました。「通りゃんせ」、「茶摘み」など懐かしい曲からジブリ曲など7曲を演奏させていただきました。私たちの演奏に合わせて歌ってくださる方も多くみえて、たくさんの方に喜んでいただけました。コロナの影響で老人ホームでの演奏ができず、私は今回が初めてでしたが、皆さんの笑顔を見ることができて、楽しく演奏することができました。10月に連絡があり「もう一度演奏に来てください」との依頼があったので、年内にもう一度演奏に行くことができたらと思っています。今後、さらに良い演奏ができるように、部員皆で練習に励んでいきたいです。

東海吹奏楽コンクールで「まさかの銀賞」

3年3組 神谷 音羽(依佐美)

8月25日に第79回東海吹奏楽コンクールが三重県文化会館にて行われ、銀賞を受賞しました。当日まで楽曲の練習が大変で辛い思いをする日もありましたが、一人一人が切磋琢磨し素晴らしい曲を作りあげることが出来たと思います。東海大会の舞台では、自分たちが今までやってきたことを出し切り、たくさんの人へ感謝を込めて最高の演奏を届けることができました。私達が目指していた全国大会出場



には及ばず、とても悔しい結果に終わりました。しかしこの大会を通し、全員でひとつの作品を作り上げる素晴らしさなど様々なことを学ぶことができました。今回のこの経験が私にとっての大切な宝物となりました。

中部日本吹奏楽コンクール本大会で「金賞・理事長賞(3位)」

3年10組 金原 結那(碧南南)

10月6日(日)に豊田市民文化センターで行われた第67回中部日本吹奏楽コンクール本大会に出場し金賞を受賞。全国大会出場バンドである金沢学院大学附属高校を抜いて第3位・理事長賞を受賞しました。マーチングコンテストの練習との切り替えに苦戦しながらも、全日本吹奏楽コンクールに出場するという目標が叶わなかった悔しさをバネにして、個人、パートごとに全員が意識を高く持ち、短期間で一人一人が充実した練習を行い、満足いく結果をいただくことができました。



大盛況! 箏曲体験会・演奏会～和の響き♪

2年9組 小林 千真理(六ツ美北)

私たち箏曲部は、8月24日(土)に「安祥閣」で初めて演奏会を開催させていただきました。安祥閣は綺麗な庭園もある素敵な和の公民館です。施設の方から事前にリクエストいただいた『OKOTO(おこと)』や『ホール・ニューワールド』など4曲を演奏し、『箏クイズ』でも箏への興味を深めてもらおうと工夫しました。体験に来てくださった方たちも、笑顔で箏を弾いて楽しく体験していただき箏の魅力を感じていただけたと思います。今回は、安祥閣の方がKATCHや中日新聞に事前告知の番組や記事をお願いして下さり、宣伝効果がたくさんの方が演奏を聴きにきてくださいました。とても良い演奏会になって嬉しかったです。

